

# 1日だけの<sup>いちにち</sup>にわか<sup>ばいしんいん</sup>陪審員<sup>けん</sup>兼<sup>さいばんかん</sup>裁判官

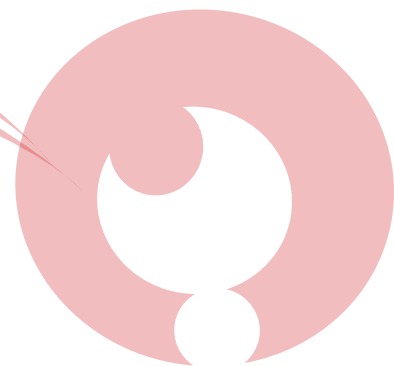
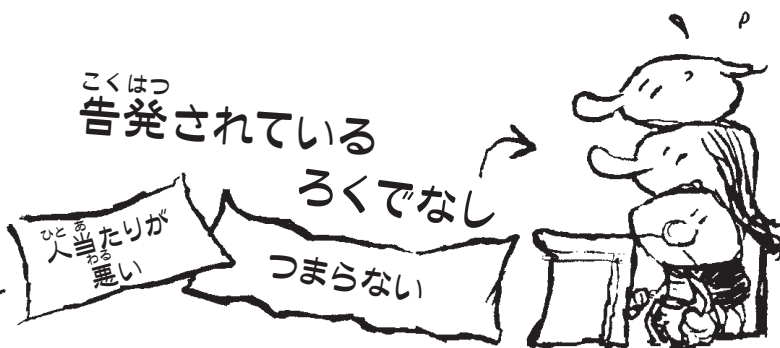


裁判官のわたしに敬意を表して、全員起立...

ある日、高慢<sup>ひ こうまん</sup>さから  
わたしは自分<sup>じぶん</sup>のおろかなやり方<sup>かた</sup>で  
1日<sup>いちにち</sup>だけの<sup>ばいしんいんけんさいばんかん</sup>にわか陪審員兼裁判官になることにした。



そこで小づちを手に取り、  
わたしは自分の仲間のあら探しを始めた。  
すると、全くおどろかないことに  
大勢の者が、浅はかな者、  
不親切な者、人当たりが悪い者、  
落ち着きがなく冷静でもない者、  
思いやりのない者、つまらない者、  
さらには、良い所が全くなく、  
人間としての信用もおけないような  
者たちだと気が付いた。

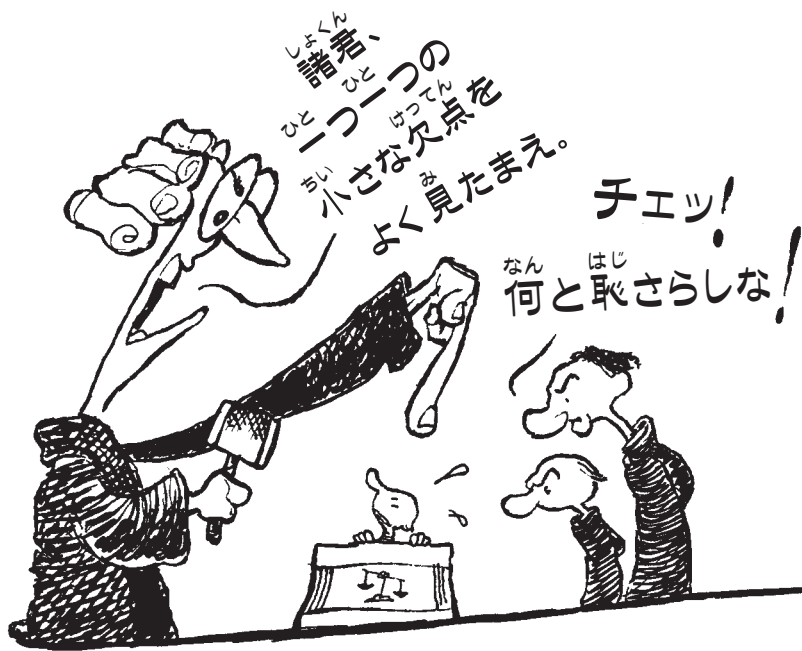






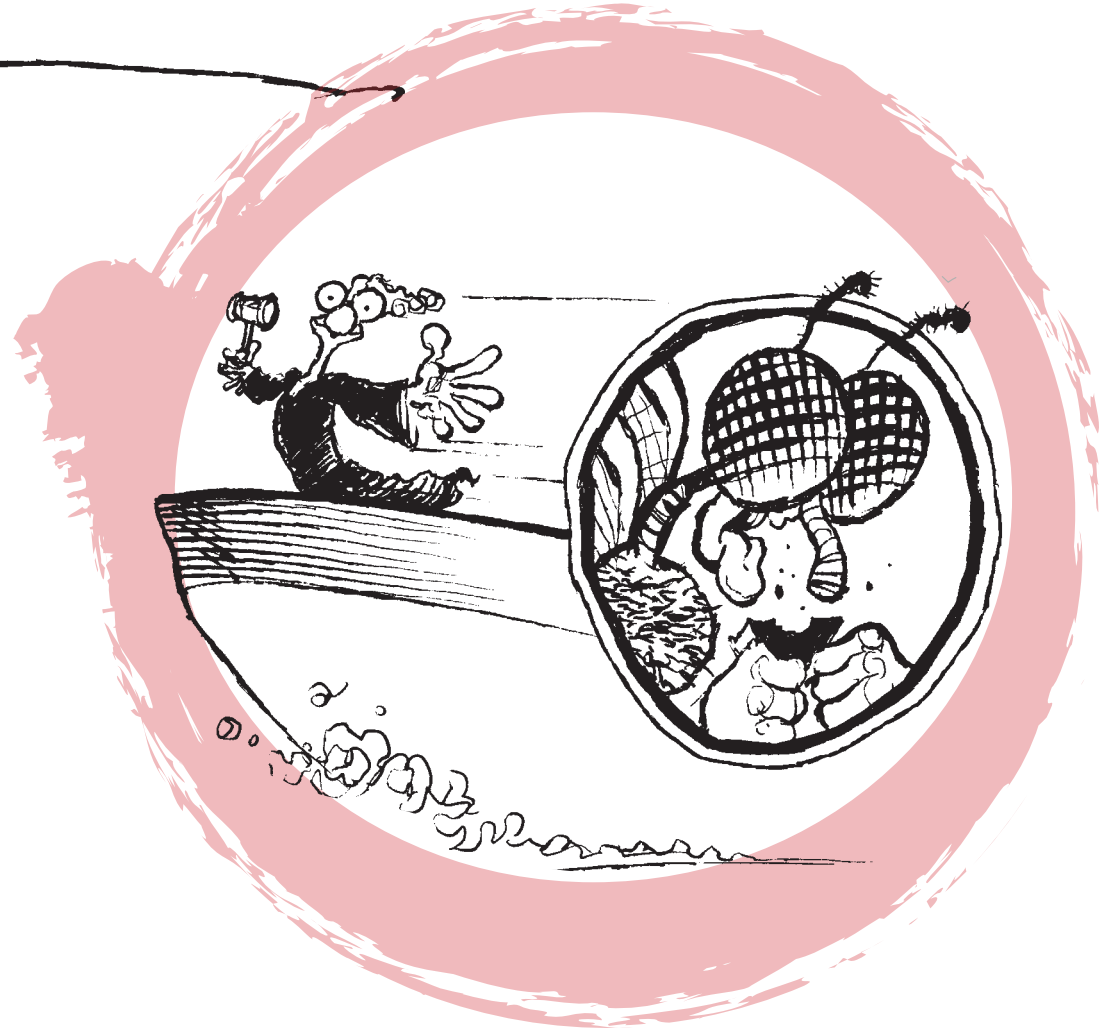
さてこっちは、<sup>きみ</sup>君たちや、<sup>さいこう</sup>最高のわたしよりも  
<sup>おともの</sup>劣る者たちだ。そしてこの者は、<sup>いつけんぜん</sup>一見善なる  
 ように見えたが、よくよく<sup>しら</sup>調べてみると、  
<sup>おお</sup>大いなる<sup>ふ かんぜん</sup>不完全さがあることが、ついに

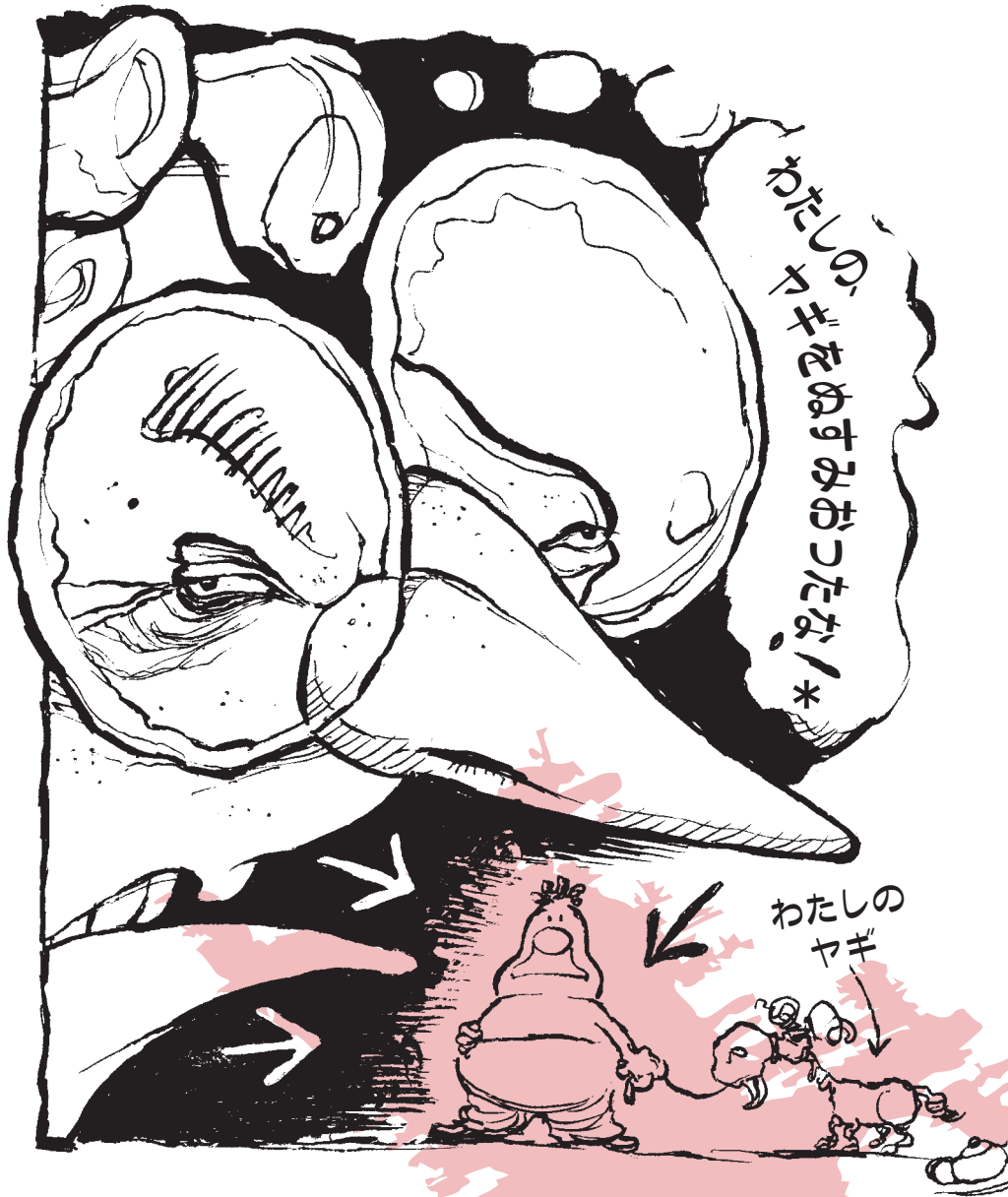
わかった。それでその<sup>とき</sup>時は、それを  
<sup>ばくろ</sup>暴露するのが自分の<sup>じぶん</sup>務めだと感じた。  
<sup>さいあく</sup>最悪の欠点を目の<sup>けってん</sup>あたりにしたからだ。



そして、おそろしいほどの<sup>けってん</sup>欠点をたくみに<sup>してき</sup>指摘し、  
この<sup>さいあく</sup>最悪のいやしむべき<sup>じじつ</sup>事実を<sup>つた</sup>伝えたことで  
とくい<sup>得意</sup>になっていたのだ。

<sup>じじつ</sup>事実、<sup>うえ</sup>ひざの上に<sup>お</sup>落ちてきた<sup>むし</sup>イモ虫や、  
<sup>なに</sup>何かを<sup>く</sup>食っている<sup>なん</sup>ハエ（でも何でもいいが）の  
ようなものではなく、<sup>うわべ</sup>上辺では、まるで  
<sup>ごう</sup>豪華<sup>か</sup>客<sup>きゃく</sup>船<sup>せん</sup>の<sup>の</sup>ファーストクラスに乗ってでも  
いるかのように<sup>りっば</sup>立派に見せかけていたのだ。  
だが、わたしが<sup>きょうだい</sup>兄弟<sup>しまい</sup>姉妹を<sup>く</sup>食べ物にし、  
<sup>おおぜい</sup>大勢の人に<sup>ひと</sup>大きな<sup>おお</sup>苦痛を<sup>くつう</sup>与え、<sup>あた</sup>





おおぜい じんせい  
大勢の人生をめちゃくちゃにするのを  
たの  
楽しんでいたら、  
さいこう わる で あ  
最高にたちの悪いごろつきに出会った。  
わたしの ばら に かえ  
わたしの腹わたを煮えくり返らせる  
いやしむべき人物に。  
はな かた いや け さ  
やつの話し方には嫌気が差す。  
ある かた ほか  
歩き方などは、もっての外だ。  
さら も かた  
皿の盛りつけ方から  
もちろん、食 べ 方 まで だ。

(\* 訳注・英語まめ知識：昔、馬はヤギがいっしょにいと大変落ち着くと  
かんが けいば ぜんじつ  
考えられていて、競馬の前日には馬を落ち着かせるためにヤギをいっしょに  
していたが、ライバルがこのヤギをぬすんで馬の神経をいらだたせ、相手が  
レースに勝てないようにじゃまをするということがあったことから、英語では、  
「あいつには、ほんとうにイライラさせられる！」という意味で、このような言い  
まわ  
回しをするようになった。)

はや おそ  
早かろうが遅かろうが、やつはマチガイだらけ

かみ みじかす ながす  
髪は短過ぎか長過ぎだし

き ふく  
着てる服はギョツとする

いろ  
色もデザインもハデなものばかり

すわ かた た  
座り方も立ち方もメツチャクチャ

はな  
鼻クソだってほじるし

ながす す  
ハグだって長過ぎるしやり過ぎ

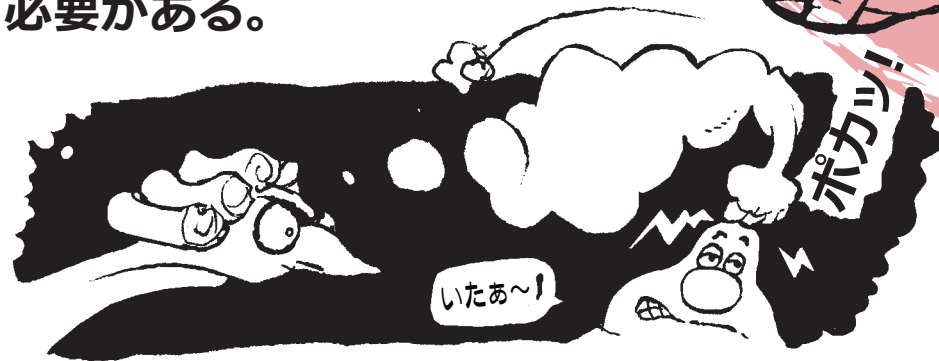
かんぜん ひと  
それに、完全に人とズレてるみたい。

い  
わたしは言わねばならない

やつには「完全なるひっちゃかめっちゃか」と  
いうラベルを貼った。

かん  
やつに関してはイライラさせられることばかり

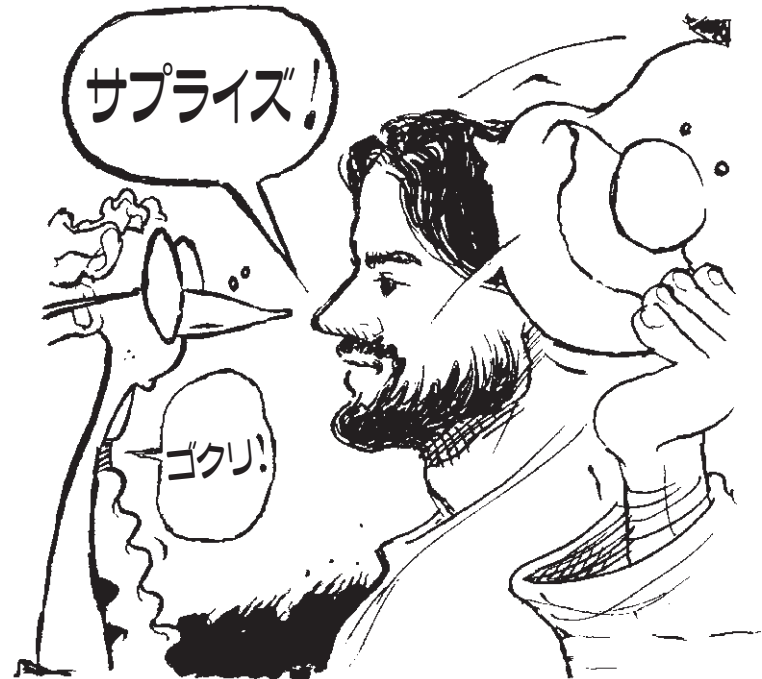
はんざいしゃやしんと ひつよう  
やつは犯罪者写真を撮る必要がある。





だが、ある夜の<sup>よる</sup>ことを<sup>う</sup>打ち明<sup>あ</sup>けよう  
わたしは<sup>じぶん</sup>自分が<sup>し</sup>死<sup>ゆめ</sup>んだ<sup>み</sup>夢<sup>み</sup>を見た  
<sup>てんごく</sup>天国<sup>しんじゆ</sup>の<sup>もん</sup>真<sup>もん</sup>珠<sup>もん</sup>の<sup>かど</sup>門<sup>で</sup>で  
わたしを<sup>ま</sup>待<sup>もの</sup>っていた<sup>もの</sup>者は  
わたしが<sup>にく</sup>あれ<sup>にく</sup>ほど<sup>にく</sup>にも<sup>にく</sup>憎<sup>にく</sup>んで<sup>にく</sup>いた<sup>にく</sup>あ<sup>にく</sup>いつ  
わたしが<sup>もっと</sup>最<sup>おも</sup>も<sup>おも</sup>つま<sup>おも</sup>ら<sup>おも</sup>ない<sup>おも</sup>と思<sup>おも</sup>って<sup>おも</sup>いた<sup>おも</sup>やつ  
たちの<sup>わる</sup>悪<sup>けだもの</sup>い<sup>けだもの</sup>ご<sup>けだもの</sup>ろ<sup>けだもの</sup>つき<sup>けだもの</sup>、<sup>けだもの</sup>獣<sup>けだもの</sup>の<sup>けだもの</sup>よ<sup>けだもの</sup>う<sup>けだもの</sup>な<sup>けだもの</sup>やつ<sup>けだもの</sup>だ<sup>けだもの</sup>！  
わたしと<sup>まった</sup>全<sup>せい</sup>く<sup>はん</sup>正<sup>たい</sup>反<sup>たい</sup>対<sup>たい</sup>で  
わたしが<sup>け</sup>毛<sup>ぎら</sup>嫌<sup>ぎら</sup>い<sup>ぎら</sup>す<sup>ぎら</sup>る<sup>ぎら</sup>そ<sup>ぎら</sup>の<sup>ぎら</sup>もの<sup>ぎら</sup>だ<sup>ぎら</sup>！

その<sup>うえ</sup>上<sup>し</sup>わたしが<sup>し</sup>死<sup>し</sup>ぬ<sup>し</sup>ほ<sup>し</sup>ど<sup>し</sup>お<sup>し</sup>そ<sup>し</sup>ろ<sup>し</sup>し<sup>し</sup>か<sup>し</sup>つ<sup>し</sup>た<sup>し</sup>  
こと<sup>し</sup>には<sup>かめん</sup>、<sup>と</sup>仮<sup>と</sup>面<sup>と</sup>を<sup>と</sup>取<sup>と</sup>つ<sup>と</sup>た<sup>と</sup>イ<sup>と</sup>エ<sup>と</sup>ス<sup>と</sup>様<sup>と</sup>が<sup>と</sup>  
こ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>た<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>。「<sup>い</sup>サ<sup>い</sup>プ<sup>い</sup>ラ<sup>い</sup>イズ<sup>い</sup>！  
わた<sup>い</sup>し<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>よ<sup>い</sup>！  
さ<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>と<sup>い</sup>！ <sup>ほん</sup>本<sup>あ</sup>を<sup>あ</sup>開<sup>あ</sup>け<sup>あ</sup>て<sup>あ</sup>、  
<sup>きみ</sup>君<sup>たい</sup>が<sup>たい</sup>わ<sup>たい</sup>た<sup>たい</sup>し<sup>たい</sup>に<sup>たい</sup>対<sup>たい</sup>し<sup>たい</sup>て<sup>たい</sup>ど<sup>たい</sup>う<sup>たい</sup>接<sup>たい</sup>し<sup>たい</sup>て<sup>たい</sup>き<sup>たい</sup>た<sup>たい</sup>か<sup>たい</sup>を<sup>たい</sup>  
ざ<sup>み</sup>つ<sup>み</sup>と<sup>み</sup>見<sup>み</sup>て<sup>み</sup>み<sup>み</sup>よ<sup>み</sup>う<sup>み</sup>か<sup>み</sup>？」







とも  
わが友よ

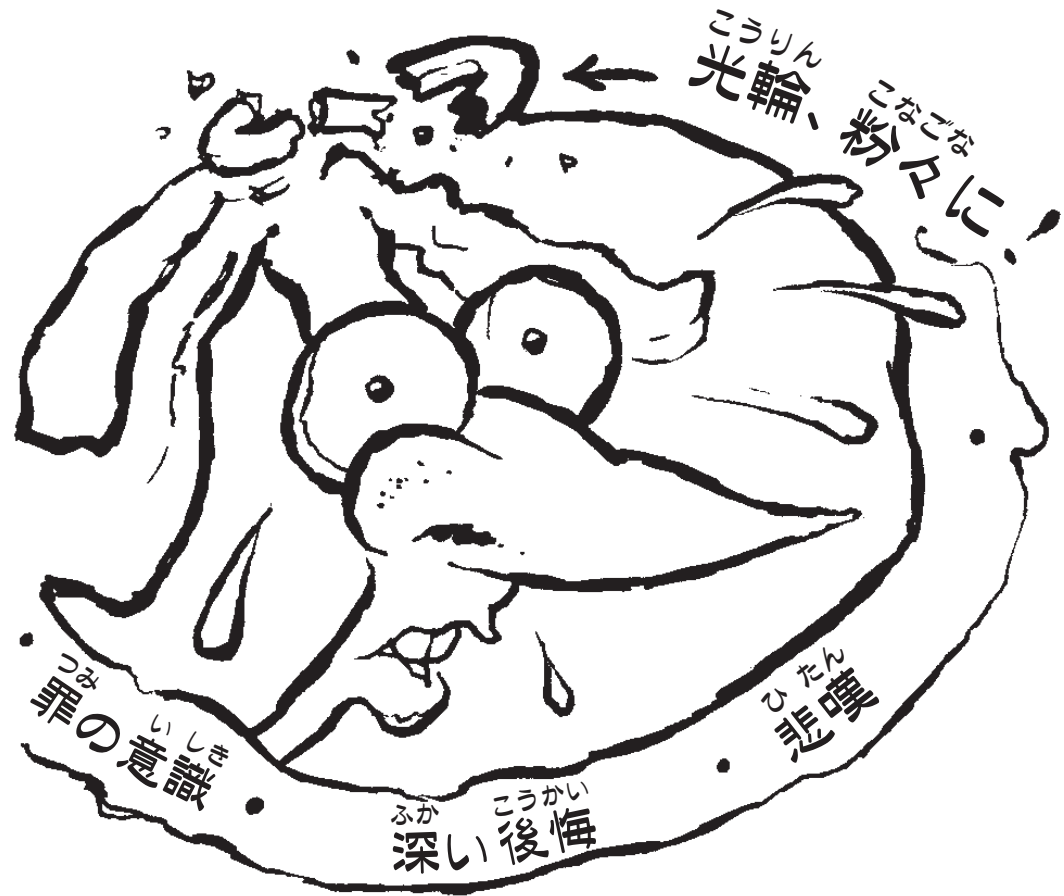
ひ め ぎ おも  
その日、わたしは目覚めたことをうれしく思う!

いま  
今わたしはおそれかしくまってここにいる

ひと ひょうばん お い  
人の評判を落とすようなことを言うのはやめ

きょうだい あい もの  
兄弟としてわたしが愛するべき者の

さが わるぐち  
あら探しをしたり悪口を言うのはやめよう

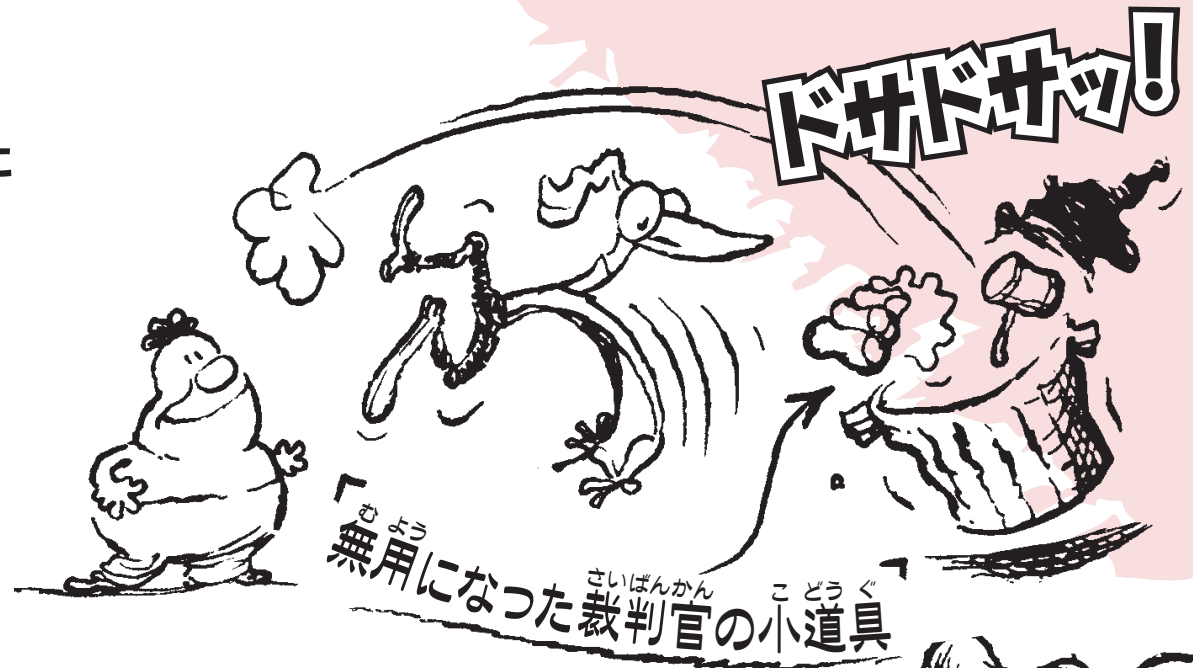


わたしのゴシップの庭<sup>にわ は</sup>に生えていた

そのような<sup>じゃあく ざっそう</sup>邪悪な雑草の

<sup>たね みず</sup>種に水をやっていた

<sup>じゃぐち せん</sup>蛇口の栓を、わたしは<sup>し</sup>閉めたのだ。



文：アナイク・A 絵：デービッド・コミック デザイン：松岡陽子  
Copyright © 2011年、ファミリーインターナショナル  
"Jury & Judge for a Day" --Japanese

<http://www.mywonderstudio.com/level-2/2011/2/4/jury-and-judge-for-a-day.html>